

登録番号 第 22485 号

ネキリエース®K

- 特長：
- 防除困難なネキリムシ老令幼虫にも高い効果を示します。
 - 土壌表面や作物の株元にまくだけなので害虫防除が簡単に出来ます。
 - コオロギにも有効です。
 - 優れた誘引作用で虫を引きつけます。

ネキリエースは保土谷化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	イソキサチオン・・・0.5%	包装	600g×20
その他化管法該当成分	—		
性状	赤紫色粒状 粒径3mm 粒長2mm～10mm	有効年限	5年
毒性	普通物 [※]	危険物	—

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む 農薬の総使用回数
はくさい	コオロギ類 ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時～生育初期 但し、収穫14日前まで	1回	土壌表面 株元処理	1回
キャベツ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	1回	土壌表面 株元処理	1回
だいこん	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	1回	土壌表面 株元処理	1回
はつかだいこん	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	1回	土壌表面 株元処理	1回
ブロッコリー	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	定植時～生育初期 但し、収穫14日前まで	4回以内	土壌表面 株元処理	4回以内
レタス	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時～生育初期 但し、収穫21日前まで	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内
非結球レタス	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時又は定植時	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内
なばな	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	発芽期まで	1回	土壌表面 株元処理	1回
だいず	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時～本葉2葉期	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内
いちご	ハスモンヨトウ	3kg/10a (3g/m ²)	収穫前日まで	1回	土壌表面 株元処理	1回
葉ごぼう	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	は種時～子葉展開期	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む 農薬の総使用回数
えだまめ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 21 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	5 回以内 (粉剤及び粉粒剤の は種時の処理は 合計 1 回以内、 粉剤及び粉粒剤の 定植時は合計 1 回以内、 粉剤の土壌表面散布は 1 回以内、 粒剤の土壌表面株元処理 は 2 回以内)
さといも	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
ごぼう	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
かぶ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 30 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	2 回以内
ねぎ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫 30 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内 (は種時は 1 回以内、 植付時は 1 回以内、 植付後は 2 回以内)
にんじん	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	発芽期～生育初期 但し、収穫 14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
メロン	コオロギ類	3kg/10a (3g/m ²)	収穫直前まで	1 回	配置	1 回
えごま(種子)	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	定植時	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
たばこ	ネキリムシ類	3kg/10a (3g/m ²)	植付時	1 回	株元処理	2 回以内

使用上の注意事項

- (1) 被害の発生をみたら作物の根際にそのまま散布すること。
- (2) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (3) メロンに使用する場合には、以下の点に注意すること。
 - 1) 収穫前増糖時の乾燥期にコオロギによる食害が発生するので、食害防止に使用すること。
 - 2) 果実にかからないように果実周辺に 1 カ所あたり数粒ずつ容器に入れ、土壌表面、あるいは床面に配置すること。
 - 3) 雨や水がかかると効果が低下するので、ハウスで使用する場合は、できるだけ灌水がかからない場所に配置すること。また、露地で使用する場合は、降雨の予想されるときには使用を避けること。
- (4) 犬、猫などペット類、家畜が食べないようにすること。食べる可能性のあるところでは使用及び保管をしないこと。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

(4) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布器具および容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。